

福知山公立大学 2020 地域活性化策コンテスト

田舎力甲子園

伝統文化のバトンを受け継ぐ高校生の実践記録

白石踊 800 年の伝統を受け継ぐ会

金光学園高等学校

3 年 和田雄喜（代表）

浅野夢 中務彩乃 名村胡桃 姫路沙彩 小原千晴

2 年 岡邊こむぎ 渡邊文奈 三澤葵 中藤浩文 水川雄貴 赤沢梨吏

赤畠菜月 朝原奈菜 木口綾香 安福柊汰 小松原奈月 新井千畝

西森翔真 三谷育郎 関谷怜未 李之勢 神達聡一郎 浅田唯吹

福武莉奈 柴田瑠菜 田村美稀 柰屋希 高橋真生 高山莉里

1 年 和田小優姫 斉藤光希 奥村真結 森山てんな

笠岡工業高校 2 年 山本誠

笠岡商業高校 2 年 山本武

倉敷古城池高校 2 年 今城慧郁 池上雅泰

広島大学附属福山高校 3 年 岩本祐依

岡山龍谷高校 3 年 大山幹人 卜部瑚万知

合計 41 名

伝統文化のバトンを受け継ぐ高校生の実践記録

白石踊 800 年の伝統を受け継ぐ会

はじめに

瀬戸内海を舞台に繰り広げられた源平合戦。岡山県の西部、笠岡諸島の一つ白石島（しらいしじま）には、合戦の犠牲者を弔ったことを起源とする盆踊りが伝わっている。右の写真の白石踊と呼ばれるこの踊りは国の重要無形民俗文化財であり、ユネスコ無形文化遺産候補にも挙がっている。しかし、この 800 年来の伝統文化が後継者不足によって存続が危ぶまれている。



2 年前に先輩がたった一人で自ら継承者に名乗りを上げ、若者世代に白石踊の魅力を伝える活動を始めた。今ではその活動に共鳴する高校生が続々と現れ、地域からも期待される動きとなっている。

昨年度の田舎力甲子園では、2019 年 5 月までの活動のまとめと将来展望を述べたが、今年度のレポートではその後の大きな進展、新型コロナウイルス感染症予防に伴う活動自粛の逆境、現在の状況を述べ、厳しい状況下でも自分たちのできる活動に地道に取り組む姿を訴えたい。

これが先輩から引き継いだ私たちの責務であり、この伝統文化を継承しようとする決意でもある。

当レポートは次の構成になっており、第 1 章～第 2 章では昨年度のレポートと重複するが、経緯説明として省けないため簡略化して紹介する。第 3 章では昨年 6 月～今年 2 月までの私たちの取り組みを詳述する。コロナ禍の発生前の活動内容である。

第 4 章では、2020 年 3 月以降、新型コロナウイルス感染症対策による活動の自粛状況下で、可能なことを前向きに取り組んだ報告をし、第 5 章の今後の予定につなげる。

第1章 白石踊の概要と後継者不足

第2章 2019 年 5 月までの取り組み

第3章 2019 年 6 月～2020 年 2 月まで（コロナ禍発生以前）の取り組み

第4章 コロナ禍の逆境のもとでの活動

第5章 今後の予定とまとめ

第1章 白石踊の概要と後継者不足

1. 白石踊の概要

岡山県笠岡市の笠岡諸島の島のうちの一つ白石島には、「白石踊」という **国指定重要無形民俗文化財** に指定されている伝統文化がある。ルーツは諸説あるが、源平合戦のときに白石島に流れついた戦死者を島の人たちが供養するために踊り始めたとされ、800年もの伝統を誇る。

日本各地の風流踊（ふりゅうおどり）の一つでもあり、現在、ユネスコ無形文化遺産候補として国から推薦されている。

特徴として、白石踊には13種類の踊りが伝わっている。踊り手の年齢や性別によって踊りや衣装が異なる。物語や浄瑠璃を題材にした口説き（音頭）が大太鼓の拍子に乗せて謡われる。同じリズムに合わせて一つの輪の中に複数の踊りが同時に踊られる形態は全国的にもとても珍しい。



男踊



女踊



娘踊（月見踊）



笠踊

2. 後継者不足

従来、白石踊は島内で伝承されてきた。しかし、この白石島は過疎高齢化により白石踊の継承者不足に直面している。2年前から白石小学校は休校になった。中学校は2年生に在籍する最後の一人が卒業する2022年3月で廃校が決定している。伝統を引き継ぐ子どもがいないのだ。

後継者育成のために白石踊会（保存会）では3年前から白石島に行かなくても白石踊が習えるよう、毎月一回、笠岡市本土で無料の講習会を開催している。しかし、この講習会に参加する中学生・高校生は皆無だった。

第2章 2019年5月までの取り組み

広く世の中の人に白石踊の魅力を伝えることと若者世代に白石踊を広めるために、最初の一人の高校生が2019年5月までに実行した概略は次のとおりである。

1. 自分自身が後継者になる

最初の高校生（渡辺陽先輩）は、白石島で島の盆に参加した時の感動を新聞投稿し、自分も白石踊を踊りたいと講習会に参加したが、当時は彼以外に中学生・高校生は誰もいなかった。（右写真）



渡辺

唯一の高校生だった頃

2. シンポジウム・論文・財団助成への応募

若者世代に向けての PR の機会を積極的に求めては、白石踊の魅力や後継者育成のアイデアを発表した。校内発表会で興味を持った同級生や下級生が徐々に参加するようになっていった。昨年度の田舎力甲子園に応募し奨励賞をいただけたことは先輩も私たちも大変嬉しかったが、年配の関係者が喜んでくださったことが印象深い。

岡山大学で開催されたシンポジウムで白石踊の後継者を増やすアイデアをプレゼンテーションしたところ、新聞にも紹介され、地元の人々が応援くださるようになった。これが福武教育文化振興財団からの助成金の受給につながっていった。

白石踊会の方々にプレゼンテーション



高校生アイデアを
実現するために

白石踊会を通じて
福武教育文化振興財団に
助成金の申請

受給決定

3. 笠岡市役所HPの更新作業

笠岡市役所HPの白石踊のページは長らく更新が止まっていたのを、高校生がお願いして毎月の記事が更新されることになった。草稿は高校生が作り、白石踊会と笠岡市役所の校閲を経て掲載いただいている。私たち高校生も白石踊会に所属しているため、高校生会員からの報告というページまで設けていただいた。この更新作業は、現在も私たちが引き継いで行っている。その結果、定期練習会の雰囲気も若返り、今では親に連れられて踊りに参加する小中学生の姿も見られるようになった。

笠岡市役所 白石踊後継者育成事業 <http://www.city.kasaoka.okayama.jp/soshiki/30/18561.html>

白石踊会笠岡支部からのお知らせ

令和元年7月10日 定期練習会の様子です。

7月10日の「白石踊鑑賞・体験ツアー」で一般の方にも白石踊と一緒に踊っていただくため、事前の無料講習会（白石踊の基礎）と定期練習会を兼ねて実施しました。皆踊り始めて白石踊の練習に取り組みました。

また、8月14日～16日には白石島で「島の盆」があります。朝に盆踊り、昼にはお祭りなど方法もあり、白石踊も踊れます。このときにも一般の方も踊りが輪に加わって一緒に踊っていただけます。まったく習ったことの無い方も当日飛び入りで一緒に踊ることができます。

白石島のお盆

8月13日（月）～15日（木）に白石公民館の広場で19時半頃から盆踊りがあります。

8月16日は（木）は19時から灯籠流し、20時頃から盆踊りもあります。場所は西浦海水浴場の浜辺です。（島の盆での踊りは、白石踊の衣装を着ての踊りではありません）

白石踊会笠岡支部からのお知らせ

次回の定期練習会は、令和元年9月 7日（土曜） 19:00～20:30

令和元年9月14日（土曜） 19:00～20:30

9月から定期練習会は月2回ずつ開催します。

笠岡市中央公民館（笠岡市笠岡 1866-1）で行います。無料。

白石踊会笠岡支部からのお知らせ

令和元年7月10日 定期練習会の様子です。

7月10日の「白石踊鑑賞・体験ツアー」で一般の方にも白石踊と一緒に踊っていただくため、事前の無料講習会（白石踊の基礎）と定期練習会を兼ねて実施しました。皆踊り始めて白石踊の練習に取り組みました。

また、8月14日～16日には白石島で「島の盆」があります。朝に盆踊り、昼にはお祭りなど方法もあり、白石踊も踊れます。このときにも一般の方も踊りが輪に加わって一緒に踊っていただけます。まったく習ったことの無い方も当日飛び入りで一緒に踊ることができます。

白石島のお盆

8月13日（月）～15日（木）に白石公民館の広場で19時半頃から盆踊りがあります。

8月16日は（木）は19時から灯籠流し、20時頃から盆踊りもあります。場所は西浦海水浴場の浜辺です。（島の盆での踊りは、白石踊の衣装を着ての踊りではありません）

白石踊会笠岡支部からのお知らせ

次回の定期練習会は、令和元年9月 7日（土曜） 19:00～20:30

令和元年9月14日（土曜） 19:00～20:30

9月から定期練習会は月2回ずつ開催します。

笠岡市中央公民館（笠岡市笠岡 1866-1）で行います。無料。

第3章 2019年6月～2020年2月まで（コロナ禍発生以前）の取り組み

第3章では、昨年度の田舎力甲子園応募後の活動内容を紹介します。高校生による白石踊関連の活動については、報告文を取りまとめ不定期に笠岡市役所HPに掲載いただいている。この章では、その報告文を引用することにより、2019年6月～2020年2月までを振り返ることとする。（報告文は敬体で書いたため、引用箇所は敬体の文章になっている。）

1. 2019年7月「白石踊ツアー」参加

令和元年7月13日 「白石踊ツアー」の様子です。

7月13日は恒例の「白石踊ツアー」が開催されました。昨年は豪雨災害の影響で中止になりましたが、今年は開催することができました。県内外から90人くらいのツアー参加者と笠岡支部関係者が白石島に渡り、白石島の白石踊会員と一緒に白石踊を楽しみました。

海水浴場の浜辺で開催予定でしたが、雨天でしたので白石小学校体育館が会場になりました。



白石踊の特徴の一つに、複数の踊りの型が一つの音頭に合わせて同時に一つの輪で踊られることが挙げられます。写真は男踊り、女踊り、扇踊り、奴踊りですが、この白石踊ツアーではそれぞれの踊りの衣装を身にまとして踊りますので、多くの写真愛好家の方々もいらっしゃいます。

白石踊は伝統的に誰でも踊りの輪に加わって踊ることができることも特徴の一つです。

全ての踊りの基本となる「ぶらぶら踊り」は全く初めての人も見よう見まねで踊りの輪に加わって、その場で踊れるようになります。右の写真は、皆さんにも踊りの輪に加わっていただき、みんなで白石踊を踊っているところです。



事前の「出前講座」や「定期練習会」に参加してくだされば、よりスムーズに踊りの輪に加わっていただけます。各自が自分の踊りたい踊りを自由に選んで踊ることができます。練習の成果が発揮されています。白石島内の中学生・高校生の他、島外の高校生も多数参加がありました。

2. 2019年7月 発表会などへの出場報告（高校生本人による報告文）

(1) 第1回 山陽学園大学 地域マネジメントコンテスト 入賞

7月20日（土）に山陽学園大学で開催された「第1回 山陽学園大学 地域マネジメントコンテスト」に金光学園高校2年高田愛珠と古江唯華が参加し、白石踊と笠岡の活性化について発表を行いました。「観光まちづくり」などの重点部門とその他のテーマの一般部門のうちで、私たちは重点部門に応募しました。私たちは白石踊を県外、さらには国外に発信するため、岡山に来ている留学生の力を借りることを思いつきました。留学生に白石踊の講習会に参加してもらい、その様子を SNS などでも拡散してもらおうのが狙いです。初めてのコンテスト参加だったのでとても緊張しましたが、練習を思い出し、落ち着いて発表することができました。その結果、出場した重点部門において「岡山商工会議所会頭賞」を受賞することができました。今後も地元の方々のお力を借りながら、笠岡の地域活性化を考えていきたいです。

(2) 福知山公立大学 2019 地域活性化策コンテスト「田舎力甲子園」入賞

令和元年7月20日、京都府の福知山公立大学で開催された「田舎力甲子園」の表彰式に金光学園高校3年渡辺陽と岡本涼颯の二人は出席しました。ニッポン全国の地方都市・農山漁村は何処も少子高齢化や地域経済の活力低下という社会的問題に直面していますが、これら諸課題に対する解決策の一つとして「田舎」の持つ内発的発展力に注目し、全国の高校生から地域活性化策のアイデアを募集したコンテストが、「田舎力甲子園」です。白石踊の魅力の説明、私たち高校生の伝統を継承する取り組み、白石踊をテーマにした観光プランの論文を作成し応募した結果、奨励賞を受賞することができました。表彰式では他県の高校の入賞作品のプレゼンテーションも聞くことができました。最優秀賞を受賞した学校の活動は、高校生が主体となり地元食材を使ったカフェを開いて SNS で発信したそうです。他校の高校生から刺激を受けて私たちも地元の魅力を伝えてゆきたいと思いました。



(3) 高校生ボランティア・アワード出場と特別賞受賞

令和元年7月29日～30日に神奈川県横浜市にあるパシフィコ横浜ホールで開催されたボランティア・アワードに参加してきました。定期練習会に参加している金光学園高校、岡山龍谷高校、鹿島朝日高校の生徒が「白石踊800年の伝統を受け継ぐ」をテーマに高校生が白石踊を習って若者世代に広める活動をしていることを紹介しようと応募したものです。応募後にも続々と高校生の定期練習会参加者が増え、今では7つの高校から19人が活動しています。今回、金光学園高校、倉敷古城池高校、総社高校の高校生 計5名で横浜まで行ってきました。

ボランティア・アワードとは、公益財団法人風に立つライオン基金を設立し理事でもある、さだまさしさんが、高校生が行っているボランティア活動を発表する場を設け、内閣府やNHK厚生文化事業団等の後援を得てボランティア活動の全国規模の交流会にしたものです。全国の高校生が日頃から続けている“ささやか

で偉大な活動”を応援するプロジェクトです。活動の規模や内容の優劣を競い合う“大会”ではなく、学校や活動分野の垣根を越えて自由に活発な交流を行い、互いの活動に対する理解を深め、連携し助け合い、切磋琢磨することを目的としている会です。

第4回目の今年は、事前のポスター審査を経た、全国から96の多岐にわたる活動団体(高校)が参加しました。大きな展示会場に設けられたブースごとに来場者に説明しました。



この2日間で高校生や先生方、一般来場者等多くの方が私たちのブースに来て発表を聞いて白石踊について関心を持ってくださいました。笠岡諸島を紹介したパンフレット200部もすべて配布しました。来場者が笠岡諸島を訪れてくださるきっかけになればと思います。他校の生徒と相互に意見交換もでき、有意義な時間となりました。また、実際にブースで白石踊の13種類のうち“ぶらぶら踊り”と“娘踊り”の二種類を披露し聴衆の方に理解を深めていただきました。

2日目はシンポジウムもあり「命の大切さ」をテーマに有識者の皆さんと生徒による質疑応答がありました。有識者の皆さんの活動経験に基づく命の大切さの意見や私たち高校生が今できることへのアドバイスを聞きこれから実践しようと思いました。

ボランティア・アワードを通して、私たちの活動は多くの方々から支えていただいているのだと再認識しました。また、他の異なる活動を行っている高校生の発表を聞いて新しい視点やアイデアを持つことができました。

なんと今回、特別賞として株式会社マイナビさんからマイナビ賞を授与いただきました。今後も多くの方々に白石踊の魅力を伝え、若者世代に白石踊に参加してもらえるように一同頑張っていきたいと思います。

3. 2019年8月 白石島のお盆の行事

令和元年8月16日 白石島のお盆の行事の様子です。

8月16日に白石島で午後19時から開催されたお盆の行事に白石踊会笠岡支部の会員と中学生・高校生数名が参加しました。あいにく、白石島に帰省していた方々が台風10号の影響で交通機関が乱れることを懸念し早めに島を出立したり、前日まで交通機関がマヒしていましたので観光客の方々にも影響があったりしたようで、今年の参加者は例年に比べると少ない印象です。

しかし、ご先祖様をお送りする白石島のお盆を島民の方と私たち支部会員と一緒に砂浜で踊ることで味わうことができました。



美しい夕陽。夕刻から法要と灯籠流しがあり、その後に白石踊になりました。

灯籠は船に乗せて沖で流します。例年は海上に灯籠の灯火が揺れるのですが、今回は波が強くろうそくの灯がすぐに消されたようです。

7月の白石踊ツアー同様、口説き（音頭）の歌い手や踊り手が次々と入れ代わり立ち代わり延々と続く本来の白石踊を今回も体験できました。

今回の盆行事の感想を高校生が書き、山陽新聞（令和元年8月30日 朝刊）に掲載されました。

笠岡・白石踊の継承必要 吉實沙希

私は、8月16日に笠岡諸島の白石島のお盆の行事に参加しました。白石島には源平合戦以来800年以上続く白石踊（国指定重要無形民俗文化財）が伝わっています。私は高校生の仲間とともに白石踊を習い、継承する活動をしています。今回は初めて実際の島のお盆でした。

夕日を望む砂浜に島内外から多くの方が集い、法要と灯籠流しが行われました。その後に、踊りの輪の中に入れ代わり立ち代わり入って踊り続ける本来の白石踊を経験することができました。白石踊には手拍子はない代わりに、合唱のポーズで供養を表します。観光客も踊りの輪に招き入れて一緒に踊る包容力があります。今回も全くの初めてという方々が一緒に踊りを楽しんでおられました。

踊りの輪の外で休憩していた年配の方々が「若いもんが参加してくれてうれしい」と話されていたのが聞こえて、私たち若者がしっかり継承する必要があることを再認識しました。白石踊を習う人が増えることを願っています。



4. 2019年7月～10月 高校生の活動・岩波ジュニア新書掲載の報告（高校生本人による報告文）

(1) 高校生ボランティア・アワード続報

令和元年7月29日～30日に横浜で開催された「高校生ボランティア・アワード」に参加しましたが、その続報をご報告します。

①主催者である公益財団法人風に立つライオン基金から当日の写真をいただきました。理事のさだまさしさんや世界的指揮者の佐渡裕さんたちと一緒に記念撮影したものと、表彰式で「マイナビ賞」という特別賞をいただいている場面の写真です。（写真の掲載許可済）

②岩波ジュニア新書に私たちの活動を掲載いただけることに



なりまし

た。

書 名：岩波ジュニア新書

「ボランティアをやりたい！

—高校生ボランティア・アワードに集まれ」

編 者：さだまさし・風に立つライオン基金 編

刊行予定：2019 年 12 月

③「進路のミカタニュース」に掲載されました。

㈱マイナビさんから特別賞「マイナビ賞」をいただきましたが、マイナビ進学の「進路のミカタニュース」で大きく取り上げてくださいました。

インタビュー記事や会場の様子が載っていますので、ご覧ください。



ボランティアに興味を持つきっかけに！ 高校生ボランティア・アワード 2019 レポート【2 日目】

<https://mikata.shingaku.mynavi.jp/article/50810/>

④このアワード参加について投稿した文章が中国新聞（令和元年 8 月 19 日 朝刊）に掲載されました。

白石踊の輪広げたい 渡辺 陽

私は笠岡諸島（笠岡市）の白石島に伝わる白石踊という盆踊りを習っています。日本各地の伝統行事が後継者不足により存続の危機にあります。私は仲間とともに、白石踊を若者世代に知ってもらい、一緒に踊ることを呼び掛けています。

7 月末、横浜市であった「高校生ボランティア・アワード」に参加しました。日ごろの活動を発表し合い、交流する場です。私たちは各地の高校生や来場者に、紙芝居を用いて、白石踊を活性化する活動を紹介しました。保存会から借りた衣装を着て、踊りの一部も披露しました。

一つのリズムに合わせて老若男女がいろいろな動きで舞う白石踊の特徴とともに、舞台となる笠岡諸島の魅力も伝えられたと思います。

最初は私一人で始めた活動でしたが、仲間と一緒に全国規模の大会で発表でき、特別賞までいただき、感慨深く思っています。貴重な経験になったし、今後の活動の励みになりました。

(2) 岡山イノベーションコンテスト ファイナルステージ進出決定

白石踊の伝統を引き継ぐバーチャルアイドルという趣旨で、渡辺陽先輩と私（和田雄喜）とで作成したビジネスプランですが、このたび岡山イノベーションコンテストのファイナルステージで発表できることになりました。

それに先立って 10 月 2 日に山陽新聞社さん太ホールで 2 次審査があったのですが、実際のファイナルステージのような演出でした。今回が人生で初めてビジネスプランを審査員の前で発表したので緊張しすぎてセリフを忘れたりなどしたのですが、言いたいことは全て言えたと思います。また質疑応答の時に審査員の質問の意図がわからず「はい（肯定）」としか言えなかったのが反省点です。



ファイナルステージの抱負としては、2次審査の反省を生かして質疑応答でどんな質問を聞かれても的確に答えることができるようになる特訓とプレゼンテーションの時にいろんなジェスチャーを交えながらの発表ができるようにしたいと思います。どうか応援よろしくお願いします。

岡山イノベーションコンテスト 2019 ファイナルステージ

日時 令和元年 11 月 23 日（土）13：00～16：30

場所 倉敷市民会館（倉敷市本町 17-1）

5. 2019 年 11 月 受賞報告（高校生本人による報告文）

(1)第 3 回岡山イノベーションコンテスト 大賞受賞

11 月 23 日に倉敷市民会館で行われた岡山イノベーションコンテストのファイナルステージに出場しました。この大会は、岡山発の新たなビジネスモデルを募集し、コンテスト方式で競うものです。

伝統の重要無形民俗文化財である白石踊を、バーチャルアイドル「白石舞」(右画像)にバーチャル空間で踊らせることで知名度を高め伝統の継承につなげる一方で、ここからさらに全国の伝統芸能のプラットフォームビジネスを確立していくことを主題とする発表を行いました。発表時間が 3 分と短く自分の伝えたいことが全ては伝えられませんでした。ユーモアを交えたプレゼンテーションを行った結果、高校生部門の大賞を取ることができました。当日は白石踊会会長、女性部長、白石公民館長にもご観覧いただき、応援をありがとうございました。



(2)第 23 回 ボランティア・スピリット・アワード ブロック表彰式出席

第 23 回ボランティア・スピリット・アワードに私たち高校生・中学生による白石踊の継承活動を応募しました。私たちが普段、定期練習会に参加し白石踊を習得しようとしていること、新聞投稿やシンポジウム参

加で白石踊をPRしていることや、これまでの活動の中で参加者が増え活動規模が拡大していった様子などを報告しました。

その結果、中四国のブロック賞を受賞しました。11月24日に松山市青少年センターで開催されたブロック表彰式に代表として渡辺陽が出席し、銀メダルと賞状をいただきました。(下の写真)

ブロック賞の受賞者(団体)は、12月22日に東京都新宿区にて開かれる全国表彰式にも参加することになっています。全国表彰式に集まったブロック賞受賞の中高生の前で、ポスターを使った3分間のプレゼンテーションを行いますので、より多くの中高校生に白石踊を知ってもらうチャンスとして、熱を入れ発表に臨もうと思います。



6. 2019年12月～2020年1月 高校生の活動の受賞報告(高校生本人による報告文)

(1)第23回SOCボランティア・スピリット・アワード 文部科学大臣賞 受賞

令和元年12月21～23日にかけて東京で開かれたボランティア・スピリット・アワード(主催:プルデンシャル生命、ジブラルタ生命、プルデンシャル ジブラルタ ファイナンシャル生命、日本教育新聞社 後援:文部科学省、日本赤十字社)の全国表彰式に白石踊会会員の渡辺陽が参加しました。このボランティア・スピリット・アワードはボランティア活動に取り組む中学生・高校生を応援するプログラムです。今回は全国から21,116名の中高生のボランティア活動内容を綴った1,823通の応募があったそうです。そのうちでブロック賞を受賞した中高生が全国表彰式に臨み、各々の取り組むボランティア活動を紹介し、交流を行いました。



私が発表したのは、白石踊を若い世代に広めるために、私たち自身が白石踊の後継者になり活動している内容です。その活動を通じて、同世代の仲間が増えてきたこと、白石踊会や地元の方々、行政、福武教育文化振興財団にご支援いただいていること、3Dで作成した美少女アイドルに白石踊を踊らせるPR構想なども発表しました。

今回は全国から集まった中高生に白石踊を知ってもらえました。私の発表を聞いて白石踊に興味を持ってくれました。全国表彰式の際には地区ブロックごとに入場したのですが、私たち中四国ブロックはみんなで月見踊りと合掌のポーズをしながら記念撮影しました。



中学生部門で1組、高校生部門で1組が最高位の文部科学大臣賞をいただけるのですが、私たち「白石踊800年の伝統を受け継ぐ会」が高校生部門で文部科学大臣賞を受賞する

ことができました。

このような大きな賞をいただき身が引き締まる思いです。メンバーと喜びを分かち合い、ここまで導いてくださった白石踊会を始めとする地域の皆様に厚く感謝申し上げます。

(2)第7回高校生ビジネスプラン・グランプリ 審査員特別賞 受賞

令和2年1月12日、日本政策金融公庫主催の「第7回高校生ビジネスプラン・グランプリ」が東京大学で開催されました。白石踊会会員の渡辺陽、和田雄喜、吉實沙希の3人は、3808件からファイナリスト10組に選ばれ、発表してきました。

プラン名は「重要無形民俗文化財バーチャルアイドル白石舞」です。もともと若者世代に白石踊を広めたいと思っていた私たちは、コンピューターグラフィックスを用いて作成したオリジナルの美少女キャラクターに実際の踊り手の動きを完全再現させました。その美少女の名前が白石舞です。この作業では河田瑞恵女性部長に大変お世話になりました。

白石踊をダンスゲームの楽曲に組み込んで世界中のプレイヤーが白石舞の動きに合わせて白石踊を踊れるようになるという構想を発表しました。ステージでは実際にゲーム化した場合のデモンストレーションとして白石舞に合わせて会場の観覧者と月見踊りを踊り、大盛況でした。

授賞式では審査員特別賞を受賞し、賞状とトロフィーをいただきました。



7. 2020年2月 文化特別賞受賞式

令和2年2月1日（土） 定期練習会の様子です。

今回は、始めに小林市長にお越しいただき式典がありました。これは1月12日（日）に東京大学で開催された高校生ビジネスプラン・グランプリで審査員特別賞を受賞した金光学園高校生3人（3人とも白石踊会笠岡支部会員）による報告とメンバーのうち笠岡市民である吉實沙希さんへの文化特別賞の授賞式です。

彼らは白石踊の継承活動の一環として知名度向上を目指して「バーチャルアイドル白石舞」というプランを作りました。白石踊を3Dデータに変換する際の踊りには河田瑞恵女性部長の大きな協力がありました。

彼らが出場したこのコンテストは応募件数が日本最大級のハイレベルな大会です。本番での彼らのプレゼンテーションの様子は主催者HPに掲載されており、今後、毎年多くの高校生たちが閲覧しますので、白石踊の知名度の向上にもつながるのではないかと

思います。





式典の後には、全体でブラブラ踊り、各自が習いたい踊りごとの小グループ練習、最後に全体での踊りを行いました。多くの小学生から高校生の若い世代の参加者がいました。



第4章 高校生たちの2019年6月以降の取り組み

1. 2020年3月～6月 白石踊の活動中止期間

新型コロナウイルス感染症の対策のため、3月～6月は定期練習会が中止になった。

白石島は高齢化率が高いうえ、医療機関も無いため、事実上のロックダウン状態で「感染が怖いから島に來ないでほしい」と言われていた。学校も休校措置が続いたため、日常生活自体が混乱していた。

白石踊を習い始めた人のデビュー公演として、新年度には笠岡駅前でのお祭りと敬老施設での慰問公演も予定されていた。しかし、コロナ禍のためにやむなく中止になった。

この間、笠岡市役所HPの白石踊のページに、定期練習会は中止している旨の表示を出してもらうよう、私たちが提案し、白石踊会を經由して市役所に伝えて対応いただいた。

定期練習会は7月から再開できたが、先祖を弔うための白石踊の本来の主目的であるお盆の行事自体までも中止された。島の長老も「戦時中ですら島の盆は行われたのに、今年は無しか・・・」とつぶやいておられた。この状況下で、できることを私たちはやった。

活動再開は2020年7月だったため、毎月の活動報告の笠岡市役所HP掲載も7月から再開した。以下にその活動報告を引用しながら私たちの取り組みを紹介する。

2. 2020年7月 白石踊の定期練習会再開

令和2年7月4日（土）と18日（土）の定期練習会の様子です。

今年は新型コロナウイルス感染防止のために定期練習会もずっと休止していました。7月4日が今年度初めての定期練習会となり、会員からは「嬉しい」「久しぶり」との声が上がっていました。マスク着用、消毒、換気、人との距離などに留意しながら実施しました。

7月4日には白石島からも指導に来ていただきましたので、太鼓や音頭もありました。7月18日はCDを音源に練習しました。いずれも始めに参加者が輪になり、ぶらぶら踊りの練習をしました。その後は、ぶらぶ

ら踊り、月見踊り、女踊り、笠踊り、男踊りのそれぞれのグループに分かれて練習を行ないました。7月4日も18日も初めて白石踊を習う方が何人もおられたので、ぶらぶら踊りに多くの方が参加していました。小学生から高校生、大学生、社会人まで様々な年代の方が新規に参加されていました。各グループでの練習の後は、それぞれの踊りを踊って練習の成果を発揮しました。



3. 2020年7月～8月の高校生の活動報告（高校生本人による報告文）

(1)金光学園高校での白石踊講習会

令和2年7月18日(土)に金光学園高等学校で白石踊継承活動の一貫として白石踊講習会が行われました。昨年に初めて開催され、今回が2回目です。白石踊会笠岡支部の方々に講師としてお越しいただきました。私自身は校内での講習会に参加するのは初めてでしたので緊張していましたが、一生懸命踊りを習っているうちに、段々と緊張もほぐれていき、気付いた時には白石踊りの魅力に体が引き込まれていく感じがしました。今回、初めて白石踊を体験する生徒が殆どでしたが、笠岡支部の方々から高校生は踊りの呑み込みが早いと褒めていただき、とても嬉しく思いました。



白石踊は一つの口説き（音頭）に合わせて何種類もの踊りを踊る点が特徴で、男踊・女踊・娘踊（月見踊）・笠踊・奴踊・扇踊など13種類の踊りがあります。中には短時間で簡単に覚えられる基本的な踊りもあり、とても奥が深く魅力的な伝統文化だと肌で感じました。



今回の講習会を通じて白石踊の魅力を知り、県内だけでなく県外、国外にも広まるように、今自分にできる

ことは何だろうと、考えるようになりました。そして、より深く日本の伝統文化に触れていくことで次の世代の人達にも伝統を継承してもらいたいと思います。今回、私はこのような取り組みから白石踊に興味を持ち笠岡支部会員になりましたが、白石踊の後継者が少しでも増えてくれると嬉しいです。今回、白石踊を学校に教えに来てくださり、本当にありがとうございました。最後に支部長と記念撮影していただきました。

(2)愛媛大学 社会共創コンテスト 2020 奨励賞 受賞

愛媛大学の社会共創コンテストに私（今城慧郁）は白石踊を組み込んだ観光プランで地域活性化を目指そうと考え応募しました。地域課題部門に応募した 186 プランの中から奨励賞に選んでいただきました。私の地元である藤戸では源平合戦が行われ、今でも多くの史跡が残っています。源平合戦自体はよく知られていますが、倉敷で行われた「藤戸合戦・水島合戦」や、水島合戦の戦死者を供養したことを起源とする白石踊などを知っている人は少ないようです。

そこで私は、全国から多くの人に訪れていただき、地元の歴史文化の認知度を向上させ、また、外出自粛で冷え込んでいる観光業界の状況を好転させる材料を提示したいと考え、このプランを計画しました。

このプランを作る際、スケジュールを立てることなど難しいこともたくさんありましたが、この作業をすることで私も地元について再発見し、



より深く知ることもできましたので楽しかったです。

この作品が入賞し、とてもうれしいのと同時に協力してくださった方に感謝しています。これからも地元の良さを全国に発信していくために、

より一生懸命活動していきたいです。

(3)福武教育文化振興財団のオンライン会議に参加

高校生が白石踊を学んだり発信したりする活動や、若い世代に白石踊を広めて一緒に後継者になってもらう活動に対して、福武教育文化振興財団から助成いただいています。井笠地域で福武教育文化振興財団から助成を受けて活動している団体が集まったの初めてのオンライン会議が 8 月 8 日にありました。私たち兄弟は白石公民館で天野正館長と一緒に参加しました。皆さんの活動内容を知ることができたり、大人の人と話すことができたりして勉強になりました。（写真は zoom 会議のスクリーンショット）



3. 2020 年 8 月～9 月の高校生の活動報告（高校生本人による報告文）

(1)白石島 海岸清掃

9 月 22 日に白石踊の継承活動をしている高校生たちと白石島の浜辺の清掃活動をしました。

一見するととても綺麗な砂浜ですが、ペットボトルや空き缶、ビニール袋など、私たちが日常的に使って

るモノが意外に多く落ちていました。暮らしに役に立つものとして作り出されたモノがゴミとしてそこにあるのを拾いながら、利便性を享受する私たちは、その後の再利用・処分といった一連の過程まで理解して使う責任があると感じました。未来は私たち一人ひとりの意識にかかっているということをこの白石島清掃活動を通して改めて感じる契機となりました。



(3)白石島トレッキング

白石島（国指定名勝）は島全体が日本遺産の構成文化財です。島の全景を見渡せて、開龍寺に至るトレッキングに参加しました。

アップダウンの激しい遊歩道。足取りの軽いガイドさんに必死についていった先には、息を呑むほどの美しい景観が広がっていました。全身に感じるその風は、特別な心地よさ。登りの疲労は一瞬で吹き飛びました。大きく、ゆったりと時間が流れるその壮大な青い自然の中に身を置くことで、私も自然に溶け込めた気がしました。こんなにも神々しい場所が、地元笠岡にあることを知り、誰かに伝えたくて心が踊りました。



第5章 今後の予定とまとめ

1. 今後の予定

(1) 広報活動

私たちは自らが白石踊の継承者になるために定期練習会等で白石踊の習得に励んでいる。それに並行して一般の人々、特に若者世代に白石踊に興味を持ってもらえるよう高校生の立場でお金のかからない広報活動をしている。シンポジウムやコンテストに応募してプレゼンテーションすることで白石踊の認知度を上げることを狙っている。「最近よく白石踊という言葉を目にする」という声も聞かれるようになってきた。

また、引き続き、新聞投稿も行い、私たちの意見を地元の方々に呼んでいただきたいと思っている。

特に来年は白石中学校が在籍生徒1人だけになり中学校の歴史の最後の年になる。今年はコロナ禍の影響で積極的に働きかけることができなかったが、白石踊会や行政の協力を得て笠岡市内と近隣の小・中・高校に呼びかける方法も模索していきたい。

(2) 白石島の自治体活動の手伝い

白石島は高齢化が著しいので、年中行事の準備や片付けを年配者に代わって私たちが行うことを本年度は考えていたが、行事の中止や事実上の白石島のロックダウンによってまだ実行できていない。私たちが今年度できたのは、海岸清掃くらいである。感染症の社会状況を鑑みながら、自治体活動の手伝いまでおこなうことを視野に入れている。

(3) 地元での出演活動

本年度はコロナ禍で中止となったが、感染症の沈静化や人が集まることの可否などの条件が整ったならば、駅前まつりへの出演や慰問公演にも参加して、人前で踊る経験を積んでおこうと考えている。

(4) 2025年大阪万博出演

私たちは東京パラリンピックの開会閉会式で白石踊を踊ろうと昨年12月にエントリーしたが落選した。しかし、これで挫けはしない。1970年大阪万博で白石踊を披露した年配の方々と「2025年大阪万博で踊ろう！」を合言葉に盛り上がっている。白石踊会、地元の人々、行政、財団が私たちの活動を応援くださっている。白石踊は日本を代表する盆踊りなので、2025年の大阪万博では世界の人の前で披露できるように踊り手の数が増えて踊り



の技術も向上させておきたい。

2. まとめ

当レポートのまとめとして、自分にできることを前向きに実践してきた高校生3年生の2人の文書を掲載する。白石踊の継承活動に取り組むことが、単に踊りの伝承だけでなく地域課題を見据えることにもつながっていった経験と、地域の大人たちに支えられている実感のこもった意見だと自負している。

(1)継承活動を振り返って（和田 雄喜）

私は1学年上の先輩に誘われて白石踊の継承活動に加わった初期メンバーのひとりだ。その先輩は優美な白石踊に感動し後世へ残したいとの思いから白石踊を習い始め、自主的に若い世代に呼びかけてきた。誰にも見向きもされない単独の活動を半年続けたそう。それが地域の人々に支えられ私たち同世代の共感と呼び、次第に輪が広がった。私が参加したころには仲間は6人くらいで、当時は同世代の友人たちからは「なんで高校生が盆踊り？」と怪訝に思われていた。しかし、私たちが楽しくアピールし続けたことで盆踊りという地味なイメージを払拭できたのではないと思う。特に私がその先輩と企画を練り、私自身がオリジナルで制作したバーチャルアイドル白石舞（しらいし まい）のキュートさは白石踊を親しみやすいものにする一助になれたのではないと思う。

今や定期練習会の雰囲気も非常に明るく楽しい。新しく練習会に参加する若い人も増えた。昨年は7高校+1中学の21人で活動していたが、今年は6高校+1中学の42人にメンバーが増えた。

ここまで来ることができたのは、白石踊会の皆さんが高校生のアイデアを実現させようと本当に温かく協力くださったお陰だと感謝でいっぱいである。地域、行政、財団、学校など実に多くの皆様に支えられていることに感謝している。また、誠心をもって始めたことは努力が実を結ぶのだと実感している。

(2)地元への貢献の意識（浅野 夢）

私の夢は、自分が生まれ育った岡山県笠岡市の地方公務員となり、笠岡諸島の雇用機会の拡充・観光や文化の振興など離島問題に取り組むことで、笠岡諸島を国内外から多くの人が集まるエリアにすることである。離島問題に取り組みたいと思ったきっかけは私のルーツにも関連する。私の祖父は岡山県笠岡市の瀬戸内海に浮かぶ白石島出身である。ここには800年の伝統を誇る国の重要無形民俗文化財「白石踊」という盆踊りがある。お盆の夜に浜辺で13種類の踊りが踊られる。私も幼少期には白石島にお墓参りなどで連れてってもらい、お盆の夜には白石踊の輪に加わっていた。

島内で脈々と継承されてきた白石踊だが、現在、小学校は休校中、中学校も来年度末に廃校が決定している。もはや島内には継承してくれる子どもがいない。私の祖父の弟（大叔父）は後継者不足の解消を目的に笠岡市役所と相談して笠岡市本土に白石踊会笠岡支部を4年前に立ち上げ、支部長の任に就いた。伝統を絶やすまいとする大叔父の悲痛な決意を知ってはいたが、未熟で一般的な女子中学生だった私は「盆踊りはイケてる女子がやるもんじゃない」と敬遠していた。白石踊会笠岡支部は中高生の参加者が皆無のまま設立から2年が過ぎた。ところが、高校の1学年上の先輩が白石踊の後継者に名乗りを上げ、たった一人で継承活動を始めた。白石島に縁も無い先輩が活動しているのを見て、昨年からは私もメンバーに加わった。

私は後継者不足の背景を確かめるために笠岡市役所の地域振興課でお話を伺った。課題として、一つ目は就労の場がないことが過疎化する原因であるため、働く場の確保が必要であること、そして二つ目は交流人口

の増加や観光による経済効果と密接な関係である島の情報発信が乏しいことを挙げられた。

私たちメンバーは、この2つの課題に対して白石踊を用いて交流人口を増やし観光業を活性化できるのではないかと思います、長らく更新の止まっていた笠岡市役所HPの白石踊の活動報告を毎月更新し、高校生の活動成果があったときにはアップもしてきた。白石踊を若者に広めるために新聞投稿やコンテスト出場などでメディア露出度を増やした。今年度に先輩から活動を引き継いだ私はもっと一般の人に周知したいと考え、ソトコト編集長の指出一正氏と関係人口についてオンライン会議で対話の機会を得た。またSNSによる情報発信も企画した。

ところが、コロナ禍のせいで定期練習会が中止になり、福祉施設での慰問公演や観光客向けツアー、白石島でのお盆の行事までも開催できない寂しい夏だった。私がSNSで発信することで世間の共感を得られたり、興味を持った人が訪れてくれて観光産業に寄与できたりすることを期待して準備していただけに、スタート時点で発信コンテンツを奪われた無力感は大きかった。しかし私はこの無力感を味わったことを決して無駄だったとは思わない。地域課題に踏み込んで活動したからこそ経験した悔しさであるから、むしろこれが起爆剤になり、私になすべきことを見据えることができた。進学の目的が明確になったのだ。

私は地方公務員として活躍するために、大学進学後は次の3つを軸に学びたいと考える。

一つ目は、地域課題に対しての取り組みや状況を実際に目で見て学ぶことである。実際に白石島へ聞き取り調査を行ったところ、離島は海に囲まれ陸地部の経済・文化の中心から離れているという地政学的に厳しい制約の下であるため、生活・産業活動・教育・医療・福祉等の高度化の立ち遅れがあることが分かった。数多くの現場を訪れ地域の生の声を頼りに、政策を創る必要があると考える。そのために大学では北欧の社会保障や福祉政策をも研究対象にして国内外での地域格差に対する施策の比較を行い、より良い仕組みを創ると共に地域格差が起こる原因について理解を深めたい。

二つ目は、数多くの地域社会に関する法律や制度、管轄を理解することである。島根県の隠岐島では行政がステークホルダーと協働して地域資源を活かした教育カリキュラムを導入し、移住者を増加させてきている。行政の姿勢と地域の産業や定住者は相関関係にあると思う。地域活性化事業を進めるための法律や制度、特区の作り方について研究したい。それは、「島づくりは人づくりから」と言われるように、地域振興のためにはその地域をよく知っている住民一人一人が考え行動し、行政がバックアップする体制を作り上げることが課題であると思うからだ。

三つ目は、市民が興味を持つための情報発信力や広告戦略を学びたい。なぜなら白石踊におけるSNS等の広報活動を通じて、一過性の効果しか得られないと実感したからだ。地域ならではの伝統文化や観光産業・イベントに関心を持ってもらうことから雇用の創出につなげる方法を模索したい。

私は大学で、地域社会・行政・情報発信を多角的、実践的に学び、幅広く貪欲に研究したい。地域振興のために行政と民間企業が協働して解決に向かう仕組みを創りたいからだ。また、メディア系の授業を履修して、伝統文化、観光や産業などの離島地域における特色をどのように発信すれば、人々に伝えやすく興味を持ってもらえることができるのかも学びたい。

卒業後は笠岡市役所の公務員となって地域の方々と協働して、笠岡諸島を全国から人が集う場所にしたい。この夢を実現させるために大学で懸命に学び、体験や研究を重ねて自己に厳しく邁進する覚悟である。

以上